

酒カップ用ポリ蓋シェア全国 No.1 のプラスチックパッケージの総合メーカー

天龍化学工業株式会社 奈良県磯城郡三宅町

昭和 30 年代、日本が本格的な高度成長へと向かった時代に、食品関連、酒造用特殊プラスチックの製品メーカーとして、スタートした天龍化学工業株式会社。その後、開栓後も蓋を閉じることができる日本酒「ワンカップ」のポリ蓋を酒造会社と一緒に製造・開発。酒カップ用ポリ蓋は、現在も 100%近いシェアを占めている。

また同社は、多くの特許と 50 年余にわたって蓄積された独自のノウハウを駆使し、従来からの小ロット・短納期型の受注体制を踏襲しながら、プラスチックパッケージの総合メーカーとしてチャレンジを続けている。

会社概要



会社名：天龍化学工業株式会社
 所在地：奈良県磯城郡三宅町 伴堂 551 番地
 電話：0745-43-0072
 FAX：0745-44-0481
 創業：1961（昭和 36）年
 設立：1973（昭和 48）年
 代表者：代表取締役社長 吉田 仁昭
 資本金：1,000 万円
 従業員：120 名
 事業内容：合成樹脂製品の開発・製造・加工・印刷及び販売



2013 年 10 月完成の広陵工場（上）と全国シェア No.1 の酒カップ用ポリ蓋とお菓子等のブリキ缶・紙管用キャップ（下）



業歴 50 年を超えるプラスチックパッケージの総合メーカー

同社は 1961（昭和 36）年、酒造用特殊プラスチック製品を製造・販売する「松本化学工業」から事業を継ぎ、現社長の吉田仁昭氏（58 歳）の父・光一氏が事業を開始。73 年に社名を「天龍化学工業株式会社」と改め、酒造用製品に加え、薬用プラスチック容器、食品容器などを主力とし、プラスチックパッケージの総合メーカーとして事業を拡大してきた。

吉田社長は、1974（昭和 49）年に入社し、すぐに営業を任せられ、地道な活動を続け、現在の取引先との信頼関係の礎を築いた。社長は「学校を卒業し、すぐに営業担当となったが、最初は仕事のイロハもわからず苦労した」と当時を振り返る。「取引先の担当者から、親身になって仕事に対する姿勢を教えていただき、営業力を磨いてきた。天龍化学工業の今があるのもその時からの人との固いつながりがあるからだ」と語る。

品揃え豊富な“天龍オリジナル製品”

同社は、全国シェア No.1 の酒カップ用ポリ蓋や一升瓶用ポリ栓などの酒用製品の他、お菓子のブリキ缶・紙管用キャップ、デザートコップやデザート容器など多様なオリジナル製品の開発・製造から販売までを行っている。



同社のキャップを使用した製品ラインナップ

また酒用製品と並んで同社の主力の一つである軟らかい素材の容器にプラスチック製口栓がつい

た「ピースパック」がある。この製品は、軽量、ごみの減量化など環境への負荷を可能な限り削減し、地球環境に優しく、液体商品を安全に内包できるユニバーサルデザイン化した美しい容器である。特にシャンプー、トリートメント、パーマ液などプロ仕様の製品を中心に取り扱っている。その



環境に優しく柔らかい素材のピースパック

他、全国シェアが上位の建材用のシリコンカートリッジなども取り扱っている。こうした先見性の高さは、大手企業が相手であっても問屋や商社を通さず、「メーカー直販」という同社のポリシーが背景にある。

最新技術を駆使したマニファクチャライン

自社設計の金型を装備した最新鋭の射出成型機や、先端設備機器を備えたメカトロ生産ラインでは、原料の自動供給から成型、シルク印刷、ホットスタンプなどの最終二次加工から組み立てまでを社内で一貫生産している。



ブロー成型によるブローボトル（シャンプー用ボトル等）を製造する広陵工場に設置されたインプロ成型機

すべてコンピュータ制御のもとに管理されたロボット群が、ミクロン精度の確かな製品を昼夜の別なく送り出し、目視と自動検査機による厳重な検査をパスしているという。

また、2013年10月、広陵工場が完成。インプロ成型機導入により、ブロー成型によるブローボトル（シャンプーやトリートメント用の頭髪用ボ

トル）などの自社生産が可能となった。内製化で



広陵工場で生産するブローボトル

きる体制を整え、プラスチック容器の品ぞろえを増やし、総合パッケージングメーカーとなることで、顧客の様々なニーズに応え、より高品質な製品を安定供給し、更なる信頼を深めていく方針である。

社是に掲げる“誠貫仁取”^{せいかんじんしゅ}と“和は力なり”

同社は、常に顧客に対して真心をもって誠心誠意を尽くす「誠貫仁取^{せいかんじんしゅ}」と、何事にも全社員が一心となって取り組めば、必ず大きな力となる「和は力なり」をモットーに掲げ事業を展開する。同時に「社員一人一人が経営者だという意識をもち、誰もが伸び伸びと業務に励み、働くことから自己実現を目指していこう」という社風を大切にし、日々精勤を重ねている。

さらに「自分たちの顧客は必ず守る」という「天龍イズム」を社員に徹底している。この理念は、売上が低迷した15年程前に、吉田社長自らが営業の陣頭指揮に立ち、率先垂範して取引先を回り、1年でV字回復させた時の営業戦略がベースとなっている。社長は「自分の担当するお客様は、自社の大切な財産を任されたも同然で、自分の責任を持って、何があっても必ず守り抜くことが、営業における天龍の最低の責任である。そのためには、営業マン個人のモラル・知識・見識を常に磨き、日々の仕事の中で、信頼を勝ち取ることが営業マンの神髄である」と熱く語る。今後も営業力の強化に努め、顧客ニーズに迅速に対応し、顧客満足度を高めていきたいとしている。

また「仕事が厳しいのは当然だが、それでも日々頑張っている社員が幸せになる会社」を目指すという。「一緒に働く社員が幸せを感じなければ、会社は決して良くならない。」と力強い笑顔で語る吉田社長。「人」を大切に同社の今後の活躍を期待したい。（橋本公秀、島田清彦）